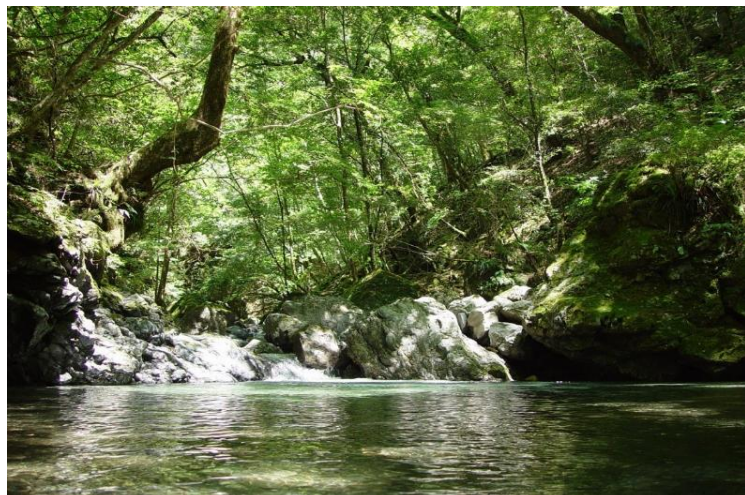




水源地の村づくり

～都市にはない豊かな暮らしを築くために～



奈良県川上村

令和6.6月 川上村長 栗山 忠昭



川上宣言

源流に住むものの誇りと使命を決意！

- 平成8年に全国に向けて「川上宣言」を発信。

川上村の歩む未来を示す“**村是**”として村づくりの中心的存在

- ー 私たち川上は、
かけがえのない水がつくれる場に暮らすものとして、
下流にはいつもきれいな水を流します。
- ー 私たち川上は、
自然と一体となった産業を育て、山と水を守り、
都市にはない豊かな生活を築きます。
- ー 私たち川上は、
都市や平野部の人たちにも、川上の豊かな自然の価値に、
ふれあってもらえるような仕組みづくりに励みます。
- ー 私たち川上は、
これから育つ子どもたちが、自然の生命の躍動に、
すなおに感動できるような場をつくれます。
- ー 私たち川上は、
川上における自然とのつきあいが、地球環境に対する人類の働きかけの、
すばらしい見本になるよう努めます。



1996年8月1日、全国に「川上宣言」を発信しました。

目指すのは、源流を愛する多様な人の協働 ひとりひとりのwell-beingの追求



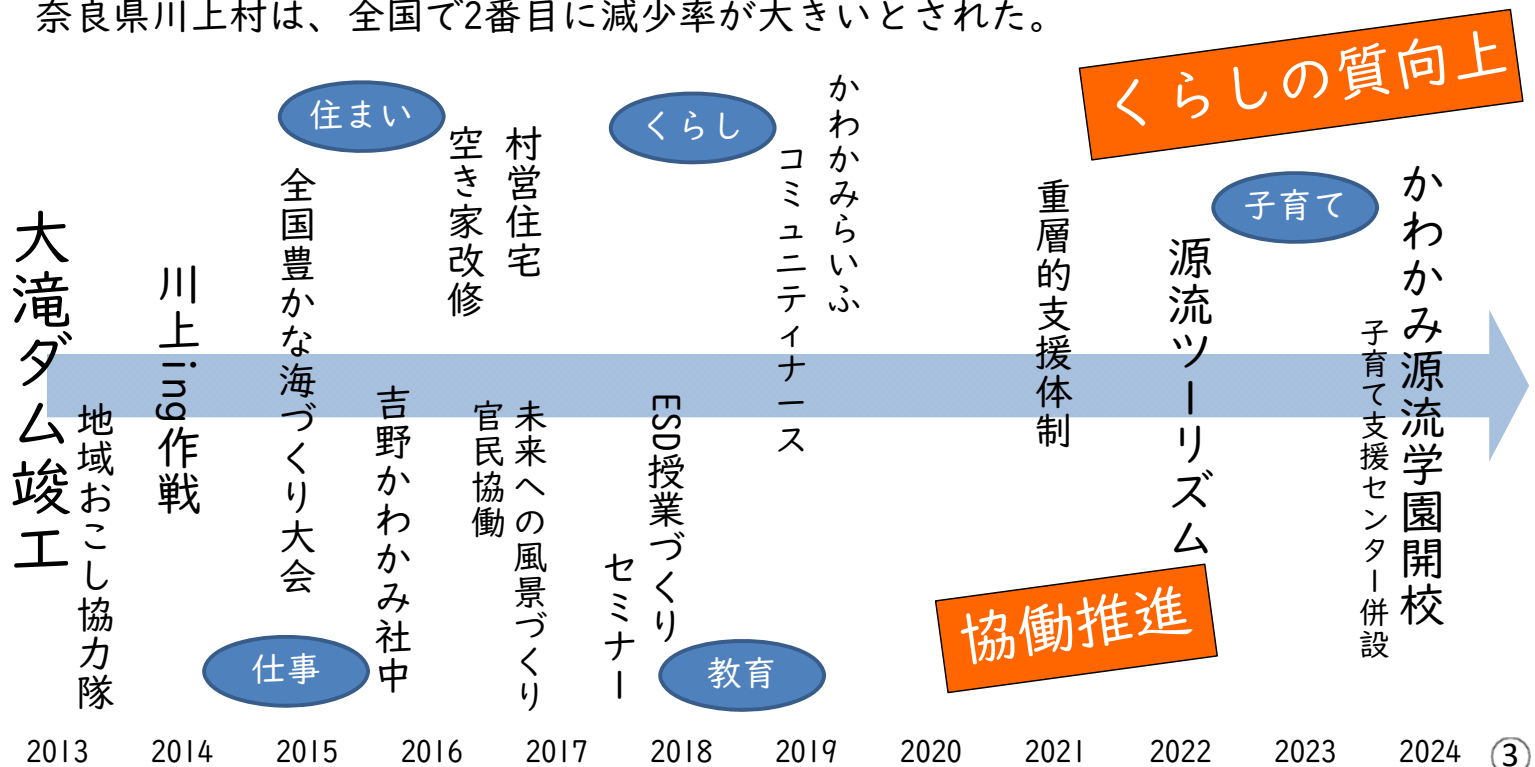
②

この10年。 2014-2024

2014年5月、日本創生会議で通称「増田レポート」が発表される。

「2040年までに全国の市町村の半数が消滅する可能性がある」とした衝撃的な内容。

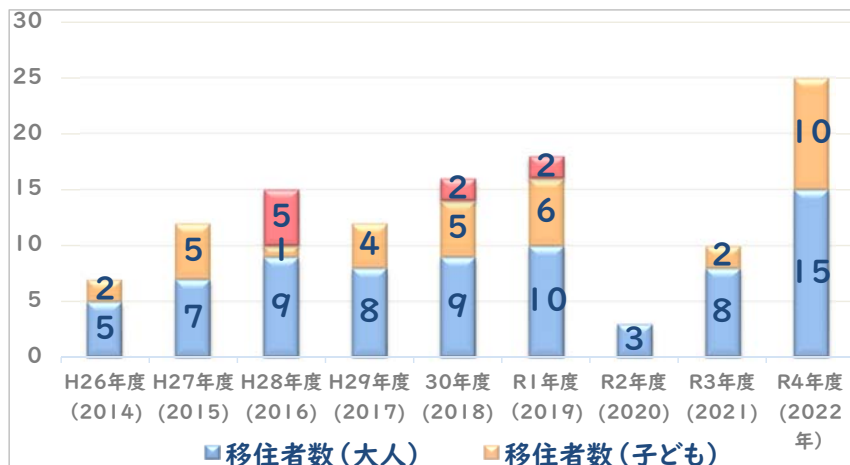
奈良県川上村は、全国で2番目に減少率が大いだとされた。



③



この10年。 2014-2024



■9年間で**48世帯109人**

(うち**子ども35人**)が移住

■加えて、移住後に誕生した子どもは**9人**

■15歳未満の子どもの人数・割合は着実に増加

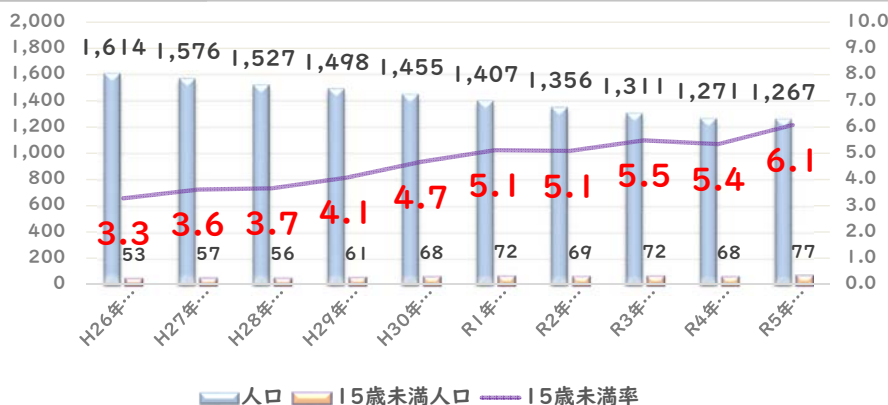
2024年のレポートでは

消滅可能性都市ではあるものの

若年女性減少率が大幅に改善

前回との増減率 29%

(改善順位 29位/1,729自治体)



4



奈良県川上村の概要

◆位置・地形

- ・奈良県の南東部に位置
- ・面積 269.26km² (**95** %が山林)
- ・吉野川 (紀の川) の**最源流**に位置

◆歴史

- ・吉野林業発祥の地(日本遺産に認定)
- ・南北朝時代、悲哀の歴史舞台に
- ・令和元年、「村制施行 **130** 周年」を迎えた
(11/16【源流の日】…「日本記念日協会」に登録)

◆人口

- ・ **1,156** 人
- ・ 高齢化率 **55.5** %



子ども(0~14歳)が
5年間で **17%増**

過疎、挑戦中!!

「村の宝」が急増中!!



5



古来より、森や川を大切にしてきた

吉野川（紀の川）の最源流
奈良県と和歌山県をまたぎ
和歌山の海へ注ぐ。136 km

●吉野川・紀の川流域



歴史の証人

400年生の人工林
文化庁「ふるさと文化財の森」選定

吉野林業に支えられ
穏やかな歴史を刻んできた

朝拝式

南北朝時代から続く儀式
悲運の最期を遂げた自天王を
偲び生前の武具を御神体として
崇める儀式



⑥



伊勢湾台風襲来 ～大迫ダム・大滝ダム建設～

吉野林業に支えられ、穏やかな歴史を刻んでいた村が “一変”



1959年(昭和34年)9月26日
伊勢湾台風が潮岬に上陸

被害状況

死者・行方不明者 5,098名(全国)
72名(川上村)

全壊流失家屋 40,838棟
半壊家屋 113,052棟

(参考)

東日本大震災
死者・行方不明者 18,428名

阪神淡路大震災
死者・行方不明者 6,437名

開発の波(水需要も…)は
山村へも

日本地図から「村が消える!？」

大迫ダム(農林水産省)

1954年着手
1973年完成



農業用水
供給

入之波集落を
中心に水没
(151世帯水没)

大滝ダム(国土交通省)

1962年着手
2013年完成



洪水調節

村役場含め神社等
村の中心部が水没
(493世帯水没)

⑦



大事な人との出会い

大滝ダム誌
にも掲載

日本水フォーラム代表理事 竹村公太郎氏の言葉

(出典：平成17年公務員白書
「ダム技術者の背中」)

建設省(現:国土交通省)に入省し、栃木県鬼怒川上流の川治ダムの現場に配属された。私は技術者として行政官として生涯の師たちと出会うことになった。ダム工事事務所の所長や課長は、いくつものダムを経験してきたダム建設のプロであった。私は懸命にダムの専門用語と技術と事業の進め方を先輩たちから学び取っていった。

彼らは酒にもめっぽう強かった。毎晩、愉快的な酒の飲み方を学び、酒席の礼儀も学び、世の中の仕組みも学んだ。ところが、酒に強い所長や課長が深く酔う時があった。それは、水没者との会合から帰ってくる深夜であった。その会合から帰ってきた所長や課長が、酔いを醒めそうと、洗面所で冷たい水を飲んでいるつかれた背中をなんども目撃した。酒に強い先輩たちが、何故それほど深酔いしてしまうのか、不思議に感じていた。

ある夜、私はそのことを聞いた。
「地元の人と飲むのは、苦痛なのですか？」
所長は少し考えて、「苦痛じゃない。しかし、辛いよ」とぼつんと言った。

人に寄り添う心

「我々は水没者たちに、ダムの必要性を説明した。彼らはダムの必要性に納得して、補償金額にも合意した。代替地での新しい生活も次第に具体化してきて、未来の希望も見えてきた。でも、彼らは寂しいのだ。

それは、自分たちの思い出が消えてしまう事だ。生まれた家、育った学校、遊んだ小川、初恋の丘。全ての思い出がダムの底に沈んでしまう。国は水没者の家屋や土地には補償する。しかし、家族の思い出や村の思い出に補償はできない。その思い出の喪失を償うため、現場の我々が水没者の話を聞き、水没者の相談にのっている。」という。

公共事業は公共性が高ければ高いほど、事業地の人々にとってメリットは少なくデメリットばかりだ。ダムがその良い例である。ダムの洪水効果や水道用水や発電の利益を受けるのは、下流の都市の人々である。それに対して、ダム水没地の人々は家屋、土地のみならず、自分たちの思い出を全て奪われてしまう。

巨大な国家事業の公共性の前に、押しつぶされそうになる水没者。その一人一人の心情を支えるのが、ダム現場の技術者の役目となる。その信頼を得るためには、自分自身の全人格を晒さなければならない、会合では酒も入り和やかに進む。しかし、心の緊張を弛緩させてはならない。

ダム現場の技術者たちは、途方もなく豊かで、深く、強靱な人間性を要求されてしまうのだ。

その後30年間以上、私は公共事業の行政で何度も何度も苦しい局面に立った。その私を励ましてくれたのが、山奥のダム現場で、重い荷物を背負っていた先輩たちの後姿であった。

8



水源地の村づくりの原点

先人たち大切にしてきたものを守る【源流域の保全】

約半世紀、大滝ダム建設に村は右往左往する。
「ダムで栄えた村はない」への抗いを続ける中、大きな気づきを得る。

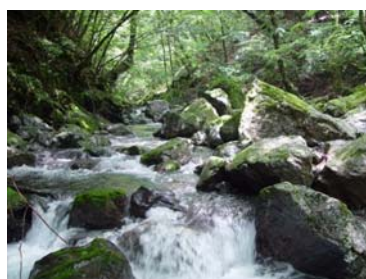
第3次総合計画「吉野川源流物語」(平成6年) を策定
「川上宣言」(平成8年)の具現化への第一歩として

✓ 平成11年～ 吉野川(紀の川)の源流に位置する
740haの原生林を村が購入。**水源地の森**として保全

✓ 平成14年 環境学習の拠点として**森と水の源流館**を開設

これらの運営母体として(平成14年)「財団法人 吉野川紀の川源流物語」を設置

設立10周年の年(平成24年)に「公益財団法人 吉野川紀の川源流物語」へ移行



9



流域とともに

「源流」の使命と役割を「共感」によって広げる

二人三脚で、流域や都市部の人たちに伝え、共に考え行動する活動を展開
村の人たちにとっても、自らの価値を再認識し、対外的に価値を伝え続ける。

- ✓ 【迎える】平成23年 吉野川分水でつながる大和平野から感謝の「**おかげ米**」が届く
平成26年「**全国豊かな海づくり大会**」にて天皇皇后両陛下が行幸啓
- ✓ 【訪ねる】村民とともに流域へ出かける「**流域学習会**」を実施
- ✓ 【仕組化】流域の恵みをブランド化「**紀の川じるし**」の取組み
水源池保護に関する協定にもとづく「**和歌山市民の森づくり**」の受入れ



⑩



みんなの「行動」へつなげる

地域資源の教材化によるESDの推進

Education for Sustainable Development
持続可能な未来づくりを担う人を育む

奈良教育大学との連携で「**森と水の源流館ESD授業づくりセミナー**」の展開

- 学校の**先生が集い、交流**しながら
- 教材さがしを通じて、相互の**地域の良さ、価値**を見出す
- 村民も伝え役（講師）として**活躍の場**となる
 - 「源流白書」を発刊し、源流の価値や重要性を提言
 - 源流基本法の制定を目指し、共感いただく国会議員が
「源流を守り、国土保全を推進する議員連盟」を立ち上げ
“源流の危機”は “国土の危機”であること
全国の源流部とともに**全国源流の郷協議会**を組織し、活動

授業づくりで
地域と人がかがやき
つながる！



⑪



地域のおもい、環境保全、教育をつなぐ

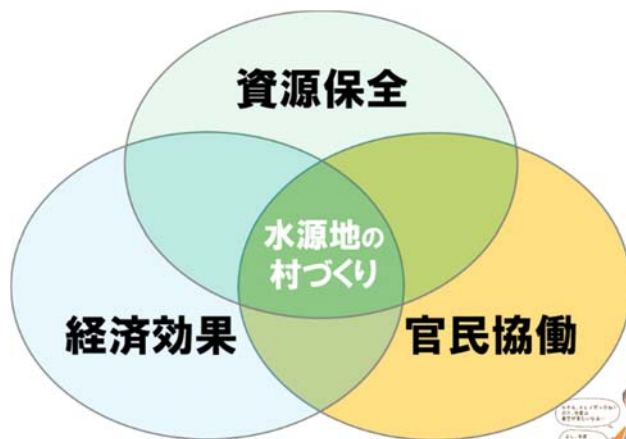
令和5年度ふるさとづくり大賞（総務大臣表彰）で評価

「代々受け継がれた地元のおもい、環境保全、教育のすべてをつなぎ、新たな交流を生み出している。また県境を越えて山から海までを流れる川の流域のつながりを構築しており、持続可能な未来をつくるための貴重な事例である」（審査員評価）

地域課題も教材化しながら、みんなの「自分ごと」へ



目指す先は



村内外多様な人を主役に
川上村の資源を守り、活用する
持続可能な仕組みの構築

かわかみ源流ツーリズム



⑫



都市にはない豊かな暮らしを築くために

1. 住み心地（居心地）を整えること。
2. 新しい出会い、つながりを求めること。

水源地の村づくり（持続可能な未来へ）

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

川上宣言の具現化

住み心地
（居心地）を
整えること

- ① 「一般社団法人 かわかみらいふ」
- ② 「一般社団法人 吉野かわかみ社中」
- ③ 「事業協同組合かわかみワーク」
- ④ 「誰もが健やかに暮らすこと」
- ⑤ 「コミュニティバス事業」
- ⑥ 「おてったいさん制度」
- ⑦ 「通信環境整備」

- …コミュニティ機能強化、生活支援
- …林業の再生、6次産業化
- …“複業”による多様な働き方、担い手確保
- …地域で高めるwell-being
- …移動手段の確保、利便性の向上
- …行政と住民のパイプ役
- …防災力の強化+テレワーク推進

新しい
出会い
つながりを
求めること

- ① 「公益財団法人 吉野川紀の川源流物語」
- ② 「水源地の村の観光と交流」
- ③ 「川上ing作戦・交流事業の展開」
- ④ 「地域おこし協力隊」
- ⑤ 「未来への風景づくり」
- ⑥ 「かわかみ源流学園の設立」
- ⑦ 「大学との連携」

- …環境保全、流域交流、啓発活動
- …観光振興、プログラム企画、広報宣伝
- …移住定住推進、関係人口の構築
- …若者定住、地域活性化
- …民間企業との共創
- …教育の拡充、人づくりは“教育”から
- …地域の“人財”育成、交流連携の強化

かわかみ源流
ツーリズム

⑬

① 一般社団法人かわかみらいふ (コミュニティ機能強化・生活支援)

事業内容

■産官金労福+村民の「一般社団法人かわかみらいふ」を設立(H28)

「村の均衡ある発展」をめざし、村民の日々の暮らしを支えるために行政と関係団体、民間企業が連携してかわかみらいふを設立。

24人の村民が活躍！
1,200人の村で
2億3千万円の売り上げ！

移動スーパーに
ミコミナスも
一緒

✓ 買い物支援（移動スーパー）

地元スーパーと連携し、2台の移動スーパーが村内を回り生鮮食品などを販売。販売場所に村民が集まり買い物やおしゃべりにより新たなコミュニティが生まれる。

✓ 買い物支援（コープ宅配）

ならコープの商品をご自宅まで個別配達。配達員が家庭を訪れ家の様子や会話を通じて高齢者の見守り活動も実施。

✓ 見守り活動(コミュニティナース事業)

移動スーパーに看護師・歯科衛生士が同行。健康状態の観察や栄養食事指導、健康相談など健康づくりや生活をサポート。



14

① 一般社団法人かわかみらいふ (コミュニティ機能強化・生活支援)

■東部地区の公共施設を「小さな拠点」としてリニューアル

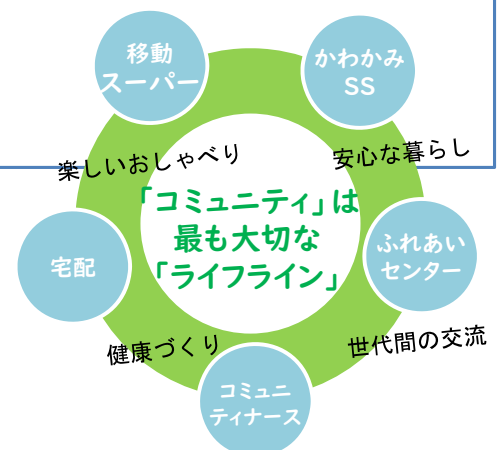
ふれあいセンターを改修し、「コミュニティカフェ」・「医師による巡回診療」・「健康体操やカラオケ活動等のサークル活動」を展開し、誰もが気軽に集まれるコミュニティの場を創出。

■かわかみSS（サービスステーション）の運営

後継者がなく、廃業予定であった村内唯一のガソリンスタンドを継業し、ガソリン等の給油や灯油の配達等の生活インフラを確保。新たな雇用の場の創出・地域内経済循環に取り組む。

■ニコニコ号（無料デマンドタクシー）の運行

自宅からバス停まで無料送迎を行うニコニコ号の運行を受託。
村民の生活の足の確保とコミュニティバスの利用促進を図る。



15



住み心地(居心地)を整えること

④ 誰もが健やかに暮らすこと (地域で高めるwell-being)

福祉の川上モデル

◆県内初の取り組みとして重層的支援体制整備事業を令和4年度より開始!

- ①多職種による地域巡回支援 (看護師+理学療法士+作業療法士)
- ②分野横断他機関の支援会議を毎月開催 (役場、診療所、社協、保育園、かわかみらいふ)
- ③多職種チームによるケース対応
- ④相談支援のチーム対応 (窓口担当+ソーシャルワーカー)
- ⑤チャットを活用した情報共有
- ⑥住民の自主的な活動を支援 (地域づくり)

らくらく元気塾・OB塾も継続中

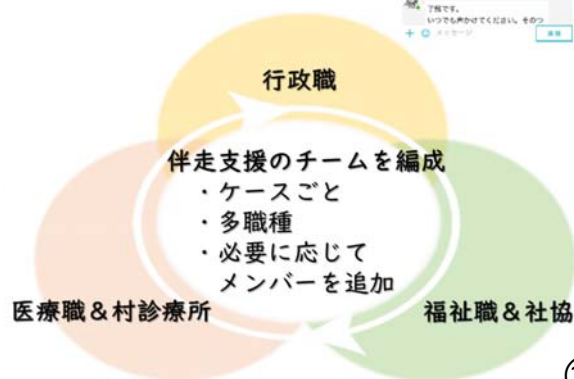
Logo

小さな気づきも共有

積み重ねてきた取り組みと国の新規事業のマッチング



コミュニティナースがいつもの健康状態を把握



16



住み心地(居心地)を整えること

④ 誰もが健やかに暮らすこと (地域で高めるwell-being)

子育て支援

◆保育園・かわかみ源流学園がR6年4月開校

- ・こども家庭センターや学童保育所を併設
- ・看護師等が常駐し子育てに関する相談や子育て世代の集まる場所を充実

◆令和6年4月 「こどもまんなか応援サポーター宣言」

保育園児数が平成26年から増え続けており 9人→31人と3.4倍に!

基準の1.5倍の保育士を配置して保育環境を充実



保育園児急増中!

充実の子育て支援

結婚祝い金 10万円
結婚新生活にかかる費用を助成 30万円
こども祝い金(0, 1, 2歳) 30万円
生後10か月からの一時預かり保育利用料無料
保育料全年齢無料(満1歳から入園できます)
医療費無料を高校生まで拡大

小中学校教材費・修学旅行費無料

習い事費用を助成 年額6万円
子育て応援手当(高校生対象) 年額6万円
高校通学費用を助成 年額10.2万円
高校卒業までインフルエンザ予防接種費用無料

住宅の新築やリフォーム補助 上限200万円

17

⑥ かわかみ源流学園（義務教育学校）の設立 “村づくりは人づくり 人づくりは教育”

事業内容

- 「ふるさとに学び、力強く自らの未来を切り拓く子どもの育成」
「どんな時代（社会）にも対応できる生きる力を育む学校」

スローガン

15の春は
正夢に

- ✓ 節目を大切に、垣根はいらない
- ✓ 川上村公共塾の開設 総合的な学習の時間を活用した「ふるさと力」「人間力」の展開

確かな 学力

義務教育の無償化
指導主事の村費雇用
タブレット端末の全児童生徒配布
ALTの村費雇用
中学生の海外語学研修＜ハワイ＞

郷土愛

村内各地が学びのフィールド
公共塾の開設「ふるさと力」「人間力」
水のつながりプロジェクト

主な取組

子育て支援の拠点化
一貫教育体制の強化
公共塾の開設

習い事支援
ESDの実践

～吉野川上下流域交流～
ICTを活用した協同学習 遠隔地授業

豊かな
人間性

スキー教室
村民大運動会（保小中村民 合同）
部活動外部指導者
部活動全員参加

たくま
しい
心身

更なる連携の強化

- ・12年間の見守り
- ・園長や指導主事の配置

保・学校
教職員の
連携を強化

学校・家庭
・地域の連携
を強化

- ・住民交流の場
- ・地域力や地域の知恵
を得る場

18

かわかみ源流学園の様々な顔

令和6年4月開校！

～学校自体が教材～

高原地区村有林にて、新校舎に使用する建材の伐採見学会を実施。

自分たちの校舎のルーツと、村や吉野林業の歴史の重みを知り、郷土愛を育んだ！

樹齢約400年の杉「歴史の証人」を活用した学年の室名札を制作。自然の循環をコンセプトにしたデザイン。



他にも仕掛けは色々！！

- ・歴史の証人を活用したデザインウォールを昇降口に設置。
- ・防火扉を活用したデザインシート等々。

～子育て支援の拠点化～

やまぶき保育園に併設して「こどもセンターあま☆ごん（こども家庭センター）」を設置。

保健師などの専門職員を配置し、子育て親子の交流の場・専門的な相談支援の場として機能。

また、施設全体が公園として機能を持ち、かわかみテラスの2階に接続された大型遊具や園庭内の複合遊具、築山は休日も開放！



川上産吉野材をふんだんに
使用した木造3階建！！

かわかみ源流学園

こどもセンターあま☆ごん やまぶき保育園（木造2階建）
かわかみテラス

19



水源地の村づくりの目指すみらい

みんながHAPPY!!

源流を愛し、守り多様な価値観が共生する村

1 「源流の危機」 = 「国土の危機」

⇒国民共有の課題

都市とは異なる低密度の暮らしがしっかりと存在することが国の底力になる。

流域治水 協働

昨今の気候変動による
地球温暖化・災害の激甚化
⇒防災・減災対策は

「**源流保全**」から

2 源流の使命と役割を果たし、伝えていく

⇒人口や経済の大きさだけで語れない「価値」あり。それらを磨き、発信する。
「都市の対極にある価値」 生きる力 SDGs ESD

3 誰一人おいてきぼりにしない村づくり

⇒源流の基本的価値観を一にしたうえで、多様な価値観の共生する村
年齢・性別・立場等に関わらず、誰もが自分らしくいられる村

座右の銘 「民 信なくんば立たず」

20



ご清聴、ありがとうございます!

以下、参考資料

住み心地(居心地)を整えること

① 一般社団法人かわかみらいふ (コミュニティ機能強化・生活支援)

事業内容

■産官金労福+村民の「一般社団法人かわかみらいふ」を設立(H28)

「村の均衡ある発展」をめざし、村民の日々の暮らしを支えるために行政と関係団体、民間企業が連携してかわかみらいふを設立。

24人の村民が活躍！
1,200人の村で
2億3千万円の売り上げ！

移動スーパーに
ミコミナス=帯同

✓ 買い物支援（移動スーパー）

地元スーパーと連携し、2台の移動スーパーが村内を回り生鮮食品などを販売。販売場所に村民が集まり買い物やおしゃべりにより新たなコミュニティが生まれる。



✓ 買い物支援（コープ宅配）

ならコープの商品をご自宅まで個別配達。配達員が家庭を訪れ家の様子や会話を通じて高齢者の見守り活動も実施。



✓ 見守り活動(コミュニティナース事業)

移動スーパーに看護師・歯科衛生士が同行。健康状態の観察や栄養食事指導、健康相談など健康づくりや生活をサポート。



① 一般社団法人かわかみらいふ (コミュニティ機能強化・生活支援)

■ 東部地区の公共施設を「小さな拠点」としてリニューアル

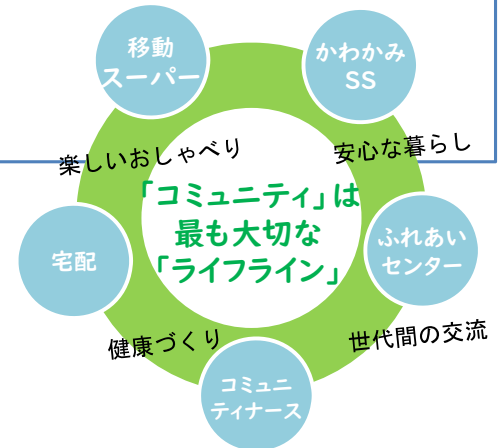
ふれあいセンターを改修し、「コミュニティカフェ」・「医師による巡回診療」・「健康体操やカラオケ活動等のサークル活動」を展開し、誰もが気軽に集まれる**コミュニティの場**を創出。

■ かわかみSS (サービスステーション) の運営

後継者がなく、廃業予定であった村内唯一のガソリンスタンドを継業し、ガソリン等の給油や灯油の配達等の生活インフラを確保。新たな**雇用の場の創出・地域内経済循環**に取り組む。

■ ニコニコ号 (無料デマンドタクシー) の運行

自宅からバス停まで無料送迎を行うニコニコ号の運行を受託。
村民の生活の足の確保とコミュニティバスの利用促進を図る。



(B)

② 一般社団法人吉野かわかみ社中 (林業の再生・6次産業化)

事業内容

- **林業関係4団体+行政**による「**吉野かわかみ社中**」を設立(H26)。
- 「**持続可能な川上産吉野材の一貫供給体制と情報拠点の構築**」を進める。
- 産地だが、**木材生産(川上)、製材・加工・流通(川中)、マーケット(川下)**に至るすべての取り組みを展開。

- ✓ 山づくり : 森林調査や再造林の実施、新規就業者の育成支援、**生産基盤の整備(作業道開設)**
- ✓ 製造・加工 : 村内6次産業化体制の構築、木造にこだわる工務店や**建築士、木工事業所、木工作家との連携**

- ✓ 販売促進 : 見学ツアーの開催、**多様なニーズに対応する商品開発・販路開拓**

日本の造林王
土倉庄三郎
生誕の地
座右の銘
「守不移」の心

東京2020 オリンピック
関連でも使用



生産基盤整備 (作業道開設)

吉野材伐採体験ツアー

村営住宅(リビングルーム)

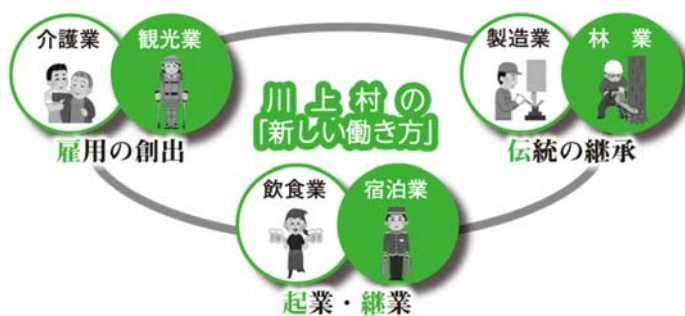
(C)

③ 事業協同組合かわかみワーク (“複業” による多様な働き方・担い手確保)

事業内容

- 「特定地域づくり事業協同組合」として、令和3年1月21日に設立。(令和3年4月事業開始)
- 若者の定着には働く場の確保が必須!!
= 「安定した雇用創出」や「働く場の掘り起こし」を通じて、
移住定住施策や関係団体とともに**地域産業の活性化**や**担い手確保**をめざす
- ✓ 林業・観光業・製造業と多業種 **4事業者**が組合に加入
- ✓ 「村で住み、村で働きたい」方を組合で雇用し、繁忙期など事業者ニーズに応じて人材を派遣
- ✓ 村内求人需要のプラットフォーム(情報窓口)として機能
・働く場の掘り起こし・見える化でき、村内にまだまだ働く場があることを証明

村の移住定住施策と
事業者の思いが合致!



移動スーパーで働く派遣職員



事業協同組合
かわかみワークHP

③

④ 誰もが健やかに暮らすこと (地域で高めるwell-being)

福祉の川上モデル

◆**県内初**の取り組みとして重層的支援体制整備事業を令和4年度より開始!

- ①多職種による地域巡回支援(看護師+理学療法士+作業療法士)
- ②分野横断他機関の支援会議を毎月開催(役場、診療所、社協、保育園、かわかみらいふ)
- ③多職種チームによるケース対応
- ④相談支援のチーム対応(窓口担当+ソーシャルワーカー)
- ⑤チャットを活用した情報共有
- ⑥住民の自主的な活動を支援(地域づくり)

らくらく元気塾・OB塾も継続中

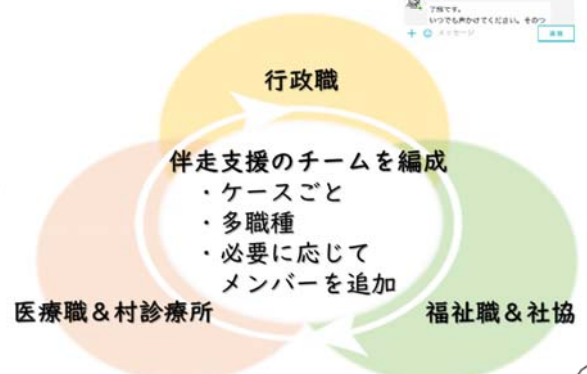
積み重ねてきた取り組みと国の新規事業のマッチング

Logo

小さな気づきも共有



コミュニティナースがいつもの健康状態を把握



④



住み心地(居心地)を整えること

④ 誰もが健やかに暮らすこと (地域で高めるwell-being)

子育て支援

◆保育園・かわかみ源流学園がR 6 年 4 月開校

- ・こども家庭センターや学童保育所を併設
- ・看護師等が常駐し子育てに関する相談や子育て世代の集まる場所を充実



◆令和5年度に新たに村営住宅を建設予定

学校周辺には村内初の
コンビニもオープン

保育園児数が平成26年から増え続けており 9人→27人と **3倍に!**
基準の1.5倍の保育士を配置して保育環境を充実



充実の子育て支援

結婚祝い金 **10万円**

結婚新生活にかかる費用を助成 **30万円**

こども祝い金(0, 1, 2歳) **30万円**

生後10か月からの**一時預かり保育利用料無料**

保育料全年齢無料(満1歳から入園できます)

医療費無料を高校生まで拡大

小中学校教材費・修学旅行費無料

習い事費用を助成 年額 **6万円**

子育て応援手当(高校生対象) 年額 **6万円**

高校通学費用を助成 年額 **10.2万円**

高校卒業までインフルエンザ**予防接種費用無料**

住宅の新築やリフォーム補助 上限 **200万円**

(F)



住み心地(居心地)を整えること

⑤ コミュニティバス (移動手段の確保・利便性の向上)

事業内容

■奈良交通バスの路線廃止(平成27年9月末)に伴い**2つのバス路線+デマンド送迎**を運営。

◆やまぶきバス(川上村コミュニティバス)

- ・路線バスの廃止に伴い、時刻改正や運行区間を延長。
- ・平日の朝便を早めたことで通学できる学校が増加。

◆ゆうゆうバス(2町3村での広域連携コミュニティバス)

- ・下北山村~南奈良総合医療センター間を運行。
広域連携で利用者増。

◆ニコニコ号

- ・自宅からバス停までを送迎。
「各バス」に接続。予約制で無料。

◆やまぶきタクシー(タクシー利用者助成)

- ・村民が村内で村内タクシーを利用した場合、
半額を補助。



(G)

⑥ おてったいさん制度 (行政と住民のパイプ役)

事業内容

- **行政と住民のパイプ役**として、全26大字(集落)に各2名を配置。

- ✓ 役場への申請や届け出を、「おてったいさん」に。
- ✓ 伝統行事や清掃作業のお手伝いを、「おてったいさん」と。
- ✓ **職員の仕事場は村内一円**(すべてがフィールド)
- ✓ 「地域に出向く」「住民に寄り添う」行政

「おてったい」とは
方言でお手伝いのコト
「おてったいさん」とは
お手伝いをする人

活用できる補助金の案内

集落内の危険個所の把握

要介護者の把握

地域の魅力を発見
広報・パンフレットで紹介

など

行事参加や普段の雑談等
の中で...

年間約50件の活動!!

Teamつながりラボ 始動

水源地の村づくりが培ってきた
人のつながりを各村民が体感できる価値に

希望職員により、各課横断チームを結成
多様な来村者との意見交換会に参加する
ことで職員同士で「人のつながり」を共有
職員を通じてそれぞれの村民とつなげていく



(H)

⑦ 通信環境整備 (防災力の強化+テレワーク推進)

事業内容

- 令和元年度、**FTTH化(全世帯 光通信化)**をこまどりケーブル(株)と協働で実施。
DXを意識し**地域の暮らしの価値を高め**、災害時の**迅速かつ一律な情報伝達**に活用
- ✓ 総務省「ケーブルテレビネットワーク光化促進事業」補助金を活用(62,903千円)
- ✓ IoT、5Gの到来に対応するプラットフォームの整備が完了。
- 光ケーブルを利用した有線での**防災行政情報放送設備**を整備。通称「かわかみ放送」
- ✓ 生活情報等のお知らせから、災害時の**いのちを守る**、情報を**迅速**に発信・伝達
- ✓ 頻繁に発信を行い、常に住民とのつながりをつくる
- **公式情報発信アプリ**「川上村 防災・行政ナビ」を構築。
- ✓ 災害時の被害や避難所等の情報はもちろん、イベントや観光情報も発信
- ✓ 村内外へ、文字や音声、画像でわかりやすく総合情報をお知らせ。



- ・ 情報発信力の強化
- ・ 緊急情報伝達媒体の多重化
- ・ テレワーク推進・関係人口構築など
- 「**新しい出会い、つながりを求めること**」
にも展開



(I)

① 公益財団法人吉野川紀の川源流物語 (環境保全、流域交流、啓発活動)

事業内容

- 水源地の村づくりの想いを発信する情報交流拠点として平成14年設立
吉野川紀の川の源流部を拠点に自然的価値、文化的価値を大切にしながら
流域や都市部の人たちに伝え、共に考え行動することで、**源流域の自然環境保全**に努める
- 「**森と水の源流館**」を拠点に、多様な主体と共に、環境保全・流域交流・啓発活動を展開
- ✓ 環境保全：「**吉野川源流-水源地の森**」の管理及び体験プログラムの提供
- ✓ 流域交流：村民を対象とした**流域学習会**の実施
流域の恵みをブランド化「**紀の川じるし**」の取組
- ✓ 啓発活動：**ESD**を核とした学習機会の提供・出張源流教室の実施

源流保全!!

水源地の村づくりの
「本丸」

授業づくりで
地域と人が輝く



森と水の源流館



流域学習会



紀の川じるしの
見本市



ESD授業づくりセミナー

①

② 水源地の村の観光と交流 (観光振興、プログラム企画、広報宣伝)

事業内容

- 一般財団法人かわかみ源流ツーリズム(昭和63年設立)
ダム完成後の未来を創る観光振興の旗艦組織
令和4年7月、商工会館に源流ツーリズム事務所を整備。移住定住情報もワンセットで発信
⇒拠点施設の運営に加え、**村民の自主的な企画をサポート**し、**広報宣伝**を強化
- ✓ **【ホテル杉の湯】** 政府登録国際観光旅館(昭和63年創業)として川上村の魅力を伝える旗艦施設
- ✓ **【道の駅杉の湯川上】** 山幸彦のお土産屋、出汁が絶品の麺コーナーあり。
平成5年4月、初回登録で道の駅認定
- ✓ **【匠の聚】** 8名の芸術家の生活と創造の場であり村民とのふれあいの場(平成11年開業)
地域の一員として芸術を通じて地域創造活動を行う。
- ONSEN・ガストロノミーウォーキング in 水源地の村・かわかみ 開催
川上村観光協会の主催事業として、歩いて「めぐり」地元の味を「たべて」温泉に「つかる」
イベントを令和5年10月29日初開催。村内外の事業者協働で 開催



ホテル杉の湯



道の駅杉の湯川上



匠の聚

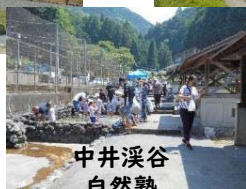


ONSEN・ガストロノミー

②

観光施設

- ✓ **【白川渡オートキャンプ場】**
四季折々に変化する豊かな大自然の中
のキャンプ場
- ✓ **【中井溪谷自然塾】**
自然を満喫！ あまご釣り＆つかみ取り
- ✓ **【井氷鹿の里】**
あまごの養魚場併設。
ログハウスもあり宿泊も可
- ✓ **【不動窟鍾乳洞】**
修験道の開祖「役行者」が1300年前に
発見したと伝わる鍾乳洞
奈良県指定文化財天然記念物



交流行事

- ✓ **【丹生川上神社上社】**
夏の七夕灯籠祭や秋の例大祭など
多くの村民が集まる
- ✓ **【山幸彦まつり】**
文化芸術を楽しむお祭り
村民の文化発表の場の一つ
- ✓ **【カヤック体験】**
おおたき龍神湖でのカヤック
日頃と違う視点から大自然を感じる
- ✓ **【氷瀑トレッキング】**
知る人ぞ知る“大峰アイスガーデン”
屏風のように広がる幅広の滝は必見！



①

③ 川上ing作戦（移住定住推進）

事業内容

水と人が「澄む村」
～自然あふれる村で子育てしてみませんか～

- 2013年より「定住」「移住」を重点施策に取り組みはじめた「川上ing作戦」。

✓「職」の相談から「住」の紹介まで、暮らしをバックアップ。

（移住ツアーによる村案内や体験、川上産材を贅沢に使用した村営住宅、シェアハウス等の住宅整備。）

村での暮らしの支援に取り組んだ結果、若者世代が定着し、

子ども（0～14歳）の人口は、2014年53人が2020年に77人に！

- 「住まい」「仕事」「暮らし」「子育て」「教育」の5つの施策をワンセットとして
子育て世帯に向けての情報発信を強化。

✓ ポータルサイトやSNSを活用し都市部へ情報を発信。

2014年から109人
（全村民の8.6%）の
移住実績

空前の
ベビーラッシュ!!

川上村移住・交流ポータルサイト



課題の把握

知見を広げる
多面的に考える

動き、結果を出す



②

交流事業の展開（関係人口の構築）

事業内容

■ 交流事業を通じて新たな出会いやつながりによる**関係人口の創出・拡大**。

地域外の人と新たな出会いやつながりを求めるため、受入れ体制を整えた上で、村と多様な関わりの機会を創出。**地域外の人と継続的かつ多様な形で関わる**ことで村のファンのネットワークを広げつつ、村内外で活躍する人を増やし、村づくりの担い手の活力を得る。

✓ ふるさとワーキングホリデー

村で働きながら遊び「くらし」を体感する2週間。人との交流を通じて村民参加者双方にとって自らを知る。

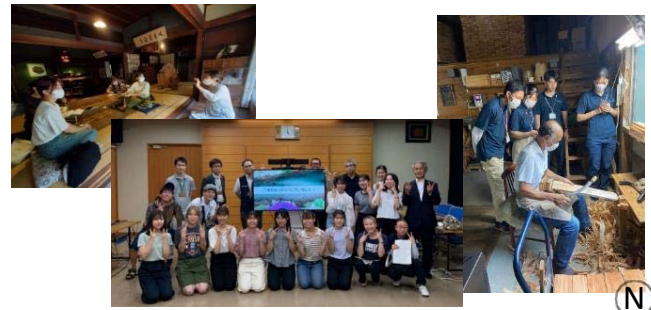
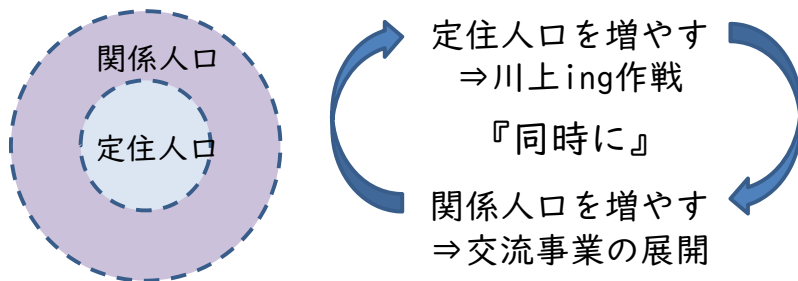
✓ 大学連携事業

村の課題の解決策を提案する問題会計型学習。オンライン学習とフィールドワークで解決策を練り上げる。

✓ オンラインコミュニティ **かわかみらい** の運営

関係人口の人たちを中心にオンライン上にコミュニティを形成。月に1度対話を実施。

リアルイベントと組み合わせ、関係人口が育む 川上村の価値創出 に取り組む



④ 地域おこし協力隊（若者定住、地域活性化）

事業内容

■ 村内に移住してさまざまな魅力を掘り起こし、

地域資源を魅力的に利活用する意欲のある**若者**を募集。

✓ これまでの採用は28名。現在、現役隊員は7名。0B・0Gのうち12名が定住。

✓ 歴代隊員の前住所地は、東京都、神奈川県、埼玉県、茨城県、新潟県、岐阜県、愛知県、大阪府、兵庫県、山口県、奈良県、（アメリカ）

✓ 村を知り、人と関係を築き、それぞれの起業に向けて展開。

■ 毎年、活動報告会を開催

令和4年6月には、秋篠宮皇嗣同妃両殿下とオンラインでご接見

暮らす宿HANARE（農家民宿） 山遊び塾ヨイヨイかわかみ studio Jig ヌーンキャンプカフェ Moon Rounds
養魚場 ドキュメンタリー配信 未木設計舎 me, yoshino 動画制作 林業 木工品製作など

彼らの**“行動力”**は、村民や役場職員に**“大きな刺激”**



⑤ 未来への風景づくり事業（民間企業との共創）

事業内容

- 大滝ダム事業に伴い「白屋」集落は全戸移転を余儀なくされた。
かつてこの地にあった人の暮らしのぬくもりを、植栽による景観づくりをとおして
再生するプロジェクト。
- ✓ 企業・団体が区画ごとに植樹と管理。
- ✓ ここを起点に、村の課題解決へ共創関係の構築
- ✓ **村と企業、企業と企業の交流、享受し合える**関係性も展開。
 - ・ 毎年秋に「ふれあいまつり」を開催。村・企業・村民の交流の場
 - ・ 大和ハウス工業(株)は、創業者石橋信夫氏の生誕の地である寺尾に
“石橋信夫翁の碑(胸像)”が令和2年9月9日に完成。人財教育の一環で活用。



将来のイメージ図



◆協賛企業・団体（R3.5月現在）
大和ハウス工業、近畿日本鉄道、佐藤薬品工業、奈良交通、鹿島建設、市民生活協同組合ならコープ
奈良中央信用金庫、奈良ダイハツ、イムラ、奈良県農業協同組合、奈良トヨタグループ
ダイドードリンコ、損保ジャパン日本興亜、タカトリ、不二熱学グループ
森林環境保全促進和歌山市議会議員連盟（16社）



P

⑥ かわかみ源流学園（義務教育学校）の設立 “村づくりは人づくり 人づくりは教育”

事業内容

- **「ふるさとに学び、力強く自らの未来を切り拓く子どもの育成」**
「どんな時代（社会）にも対応できる生きる力を育む学校」
- ✓ 川上村義務教育プランを基に**12年間を見通した教育**
- ✓ 確かな学力や豊かな人間性、たくましい心身、郷土愛を育む教育を推進
- ✓ 川上村公共塾の開設 総合的な学習の時間を活用した「ふるさと力」「人間力」の展開
- ✓ 川上村に住む子育て世代が、安心して子育てできる環境をつくる。

スローガン
**15の春は
正夢に**

確かな
学力

義務教育の無償化
指導主事の村費雇用
タブレット端末の全児童生徒配布
ALTの村費雇用
中学生の海外語学研修＜ハワイ＞

主な取組

子育て支援の拠点化
一貫教育体制の強化
公共塾の開設

習い事支援
ESDの実践
～吉野川上下流域交流～
ICTを活用した協同学習 遠隔地授業

豊かな
人間性

郷土愛

村内各地が学びのフィールド
公共塾の開設「ふるさと力」「人間力」
水のつながりプロジェクト

スキー教室
村民大運動会（保小中村民 合同）
部活動外部指導者
部活動全員参加

たくま
しい
心身

更なる連携の強化

・12年間の見守り
・園長や指導主事の
配置

保・学校
教職員の
連携を強化

学校・家庭
・地域の連携
を強化

・住民交流の場
・地域力や地域の知恵
を得る場

Q



新しい出会い、つながりを求めること

かわかみ源流学園の様々な顔

令和6年4月開校予定！

～学校自体が教材～

高原地区村有林にて、新校舎に使用する建材の伐採見学会を実施。

自分たちの校舎のルーツと、村や吉野林業の歴史の重みを知り、郷土愛を育んだ！



樹齢約400年の杉「歴史の証人」を活用した学年の室名札を制作。自然の循環をコンセプトにしたデザイン。



他にも仕掛けは色々！！

- ・歴史の証人を活用したデザインウォールを昇降口に設置。
- ・防火扉を活用したデザインシート等々。

～子育て支援の拠点化～

やまぶき保育園に併設して「こどもセンターあま☆ごん（こども家庭センター）」を設置。

保健師などの専門職員を配置し、子育て親子の交流の場・専門的な相談支援の場として機能。

また、施設全体が公園として機能を持ち、かわかみテラスの2階に接続された大型遊具や園庭内の複合遊具、築山は休日にも開放！



川上産吉野材をふんだんに使用した木造3階建！！

かわかみ源流学園

こどもセンターあま☆ごん やまぶき保育園（木造2階建）
かわかみテラス



新しい出会い、つながりを求めること

⑦ 大学との連携（地域の“人財”育成、交流連携の強化）

事業内容

- 相互の資源を持ち合い、地域の課題に迅速かつ適切に対応し、活力ある地域社会の形成と発展に寄与するとともに、**関係人口の創出**をめざす。

- ✓ **連携協定締結：大阪工業大学(2010年) 奈良女子大学(2017年)**
北九州市立大学地域創生学群(2022年) 人間環境大学(2023年)

具体連携：新入生オリエンテーションの実施、旧東小リノベーション
ライブカメラ設置、協働授業の実施、特産品開発 等

- ✓ **“源流学”の実施**(大阪工業大学)
座学とフィールドワークを組み合わせた課題解決型学習
水源の村づくりの理念・取組を座学で学び、フィールドワークで
課題に接し、解決策を提案。

- ✓ **その他各大学と事業ベースで連携**

■ 地域づくりインターン（1997年～）

大学生を中心に、2週間地域に入り、五感で暮らしを体感
地域と学生の継続的な交流（関係の継続）をめざす



木匠塾(1998年始動)

～日本建築学会教育賞(教育貢献)を受賞！～

間伐材の活用と創造を通して

木や自然を学ぶ「木匠塾」

吉野林業発祥の地である川上村を拠点に、間伐材を使った制作物など実際に木に触れる創作体験を通じて、日本の林業や山村での生活、木という素材が持つ可能性について学ぶ教育プログラムを展開。

大阪工業大学、大阪芸術大学、近畿大学、滋賀県立大学、奈良女子大学の5大学が参加し、21年間で参加した学生はのべ1,400人を超える。





ご来村、お待ちしております！